

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 8 日現在

機関番号：24506
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21653085
 研究課題名（和文） 博物館による古写真と記憶の広域収集とテキストマイニングによる活用
 方策
 研究課題名（英文） Utilizing old photographs for museum programs by collecting from
 wide area and text mining.
 研究代表者
 田原 直樹（TAHARA NAOKI）
 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授
 研究者番号：50244695

研究成果の概要（和文）: 本研究では、古写真とその記憶を博物館の生涯学習事業として広く共有・活用する手法を確立することを目的とした。結果として、生涯学習の機会となる古写真とその記憶の収集から活用に至るプロセスが確立できた、古写真を用いて地域の環境と景観の形成過程を解読する方法を開発した。

研究成果の概要（英文）: In this research, we aim to establish long life learning methods that share and utilize old photographs and owner's memories. In results, we establish the long life learning process leading to utilizing from the collecting of old photographs and memories, decoding method of regional environment and landscape forming process using old photographs.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	0	1,100,000
2010年度	1,200,000	0	1,200,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,000,000	210,000	3,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：生涯学習，博物館学

1. 研究開始当初の背景

我が国は本格的な少子高齢化が始まり、経済成長を第一とする社会から「人口及び物質的消費の成長をあきらめても、生活の質を成長させることはあきらめない」と定義される成熟社会（ガボール，1972）への転換の時期を迎えている。この成熟社会の実現に向けて、全ての世代の地域住民が生活基盤となる自然・環境を理解し、人間の知恵を含めた人と自然の共生関係を伝え合い、未来に向けた行

動につなげていくことがこれまで以上に求められる。ここで生涯学習機関として博物館が果たす役割は極めて大きい。

自然減による人口減少を既に経験しているフランスでは、約 15-20km 四方のエリアで構成され「生活・環境博物館」と訳される（新井，1987）「エコミュゼ」が上記の機能を担っている。中でも地域住民と共に行う古写真とその記憶の収集活動は、地域社会の知恵が画像およびテキストで整理され、専門家と共

に分析され、学習素材として地域に還元されるというプロセス全体が生涯学習の機会となるものである。

また、体験型へシフトしつつある国内の博物館であるが、設置区分によって研究分野や事業内容に専門化が見られ、地域社会が求める「人と自然の関わり」といった総合的な取組みは未だ少ない。一方で登録博物館の資料収集・研究は、設置範囲の地域・流域単位の活動が求められ、地域固有の情報を広域に分析するという命題が生じる。これらの状況から、我が国の博物館にとって古写真とその記憶をあわせて収集・活用することは、「人と自然の関わり」といった総合的な課題に対して有効であり、収集・研究から活用まで全てのプロセスが生涯学習の機会となりえるが、その広域収集と記憶の分析手法に関して大きな課題があると言える。

2. 研究の目的

本研究では地域住民が家庭で保存している古写真とその記憶を広域に収集し、博物館の生涯学習事業として広く共有・活用する手法を確立する。その結果をもって、従来の博物館では困難であった「人と自然の共生関係の理解」といった総合的な社会的課題を解決する、新たな生涯学習のあり方の提案を行うことを目的とする。

一般家庭に保存されている古写真とその記憶を、地域住民と共に、かつ広域に収集・分析するシステムを確立することは、従来の直接型資料収集とは大きく異なる手法開発であり、広い専門分野を総合的に捉えるべき博物館学にとって広域レベルで人と自然の共生関係を読み解くという大きな前進を得る。

3. 研究の方法

(1) 古写真の古写真と記憶の収集から活用までの手法の確立

兵庫県下から兵庫県西播磨地域佐用町上三河地区・河崎地区・船越地区・漆野地区、同但馬地域山東町与布土地区、同淡路地域淡路市仁井地区、同阪神北地域川西市黒川地区・三田市相野地区を調査対象地区として、地域住民から古写真を収集した。あわせて古写真に關係する記憶を収集するため、収集した古写真を用いて調査対象地区においてヒアリング調査、アンケート調査、古写真展、語る会を実施し、効果的・効率的な手法を比較検討した。これらの会におけるヒアリング調査を通じて、古写真地域住民間での共有・活用方を検討した。

(2) 景観分析による集落の様子再現

三田市相野地区の古写真収集においては、地域理解の手法として、景観分析によって当時の集落の様子を再現することを試みた。景

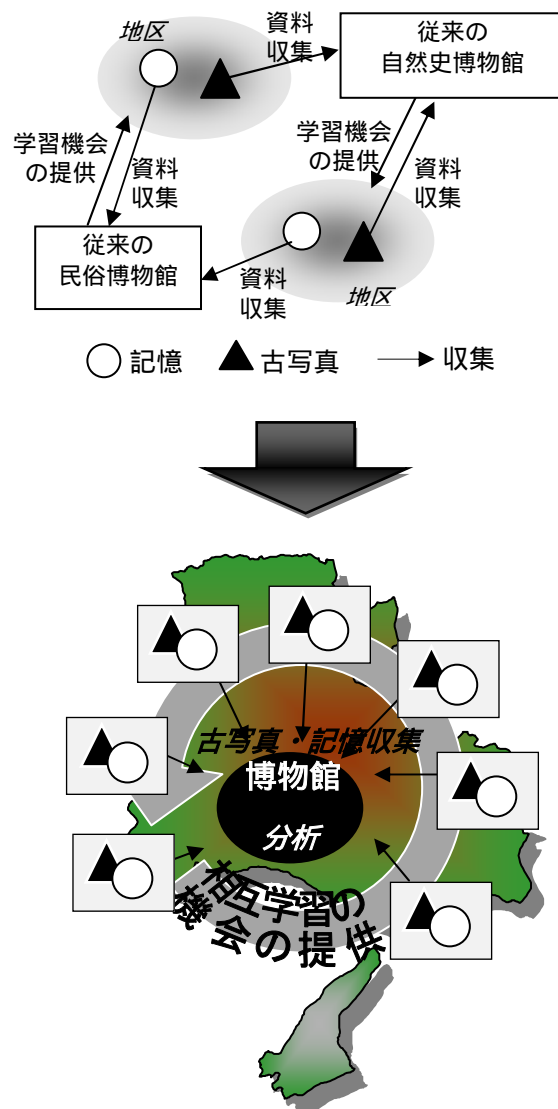


図1 古写真・記憶収集と博物館の役割

観分析は、被写体となっている地形を現在と比較することで位置と撮影方向を推定し、現地踏査によって位置と撮影方向を特定し、被写体や他の地物を古写真間で比較することで時系列を整理することで、地域（集落）とその景観の形成過程を解読した。

4. 研究成果

(1) 古写真の古写真と記憶の収集から活用までの手法の確立

全調査対象地区を通して行った古写真の一時期借用、博物館でのデジタル化、提供者への返却、デジタルデータの使用許諾の取得および記憶の取得(アンケート)、地域での古写真展開催を通じた記憶の二次データ(他者の記憶)の収集は、博物館による古写真とその記憶の広域収集の手法としてほぼ確立され、本研究の目的の一つである「新たな生涯学習のあり方の提案」



温床づくり

昭和 30 年頃。落ち葉などをひきつめて温度（熱）を持たせ、その熱を利用し野菜苗作りをしていた。

図 2 小学生による古写真の収集と聞き取り文

の骨格となった。提供者から得られた記憶によって、古写真に写る景観、構成物に加えて生活に関する情報も多数得られ、生涯学習の素材として極めて有効なデータが得られた。

提供者から得られた古写真と記憶を用いて開催した古写真展におけるヒアリング調査および据え置き記載調査では、数は少ないながらも古写真には写っていない当時の様子や暮らし、生き物に関する情報が得られた。この二次データ（想起データ）を得る過程自体が来場者のコミュニケーションを誘発し、当時の様子を他者に伝える生涯学習のプロセスに繋がっていた。図 2 と図 3 に一例を示す。

小学生による自宅での古写真収集と、祖父母世代からの記憶の収集といった学習プログラムを実施した結果、前述した二次データ（想起データ）に近い記憶を収集することができた。この方法は、簡単に小学校で実施でき、大量の古写真と記憶を収集する手法として期待できる。

兵庫県朝来市与布土地区において実施した、写真提供者が参加者に向かって当時の様子を語る会においては、細かな情報まで伝達者と参加者間のコミュニケーションを通して行われると共に、地域づくりの方向性を議論するに至った。この方法は、生涯学習を通じた地域づくりの手法として、今後期待される。

以上の結果から、古写真とその記憶によって人と自然の共生関係を読み解き、成果を地域に還元するまでを地域住民と共に行うことは、【収集】～【研究】～【活用】といった博物館活動のプロセス全てが生涯学習の機会となることが明らかとなった。



田植の共同作業

戦時中共同での田植田ごしらいの様子。牛んがでの田がやし(耕運)。当時は田植が遅くなったりしたら助けに行き、作業を一緒にしていました。

<想起データ>

水路でウナギがとれていた。最近まではとれていた。

図 3 提供者による写真説明（記憶）と観覧者の想起データ

国内のどの地域でも保存されている古写真を素材とした「住民参加型調査と相互学習手法の確立」の手法が確立されたと言える。

(2) 景観分析による集落の様子の再現

古写真を用いて、戦前からの開拓村である兵庫県三田市相野地区平野集落の居住環境と景観の形成過程を解読する方法を開発した。以下にその方法をまとめる。

M 家所蔵の古写真 231 点の中から、確実に現存する山や池といった地形を元に、撮影場所と被写体の方向を同定することを通して、平井集落を確実に対象とし、現況の平野集落との地理的關係を検討しうる 27 点を抽出した。

キーとなる地物「M 家主家」「圃場法面」の写る古写真を比較することから、それらの写真を時系列的に整理した。

で整理した時系列を元に、撮影場所の移動と撮影内容の移り変わりを読み取り、3 つに時期区分を設定し 27 点の写真から 21 点を分類した。

において設定した 3 つの時期区分毎に建物や土地利用を判読し、形成過程を解読した。

以上のように、地域から収集した古写真を用いて、当時の居住環境や景観の形成過程を一定の精度で解読する手法を開発した。しかし、164 点もの調査対象となる古写真がありながら、撮影場所と被写体の方向が同定できた 27 点に基づいた解読に留まった。今後は、広範かつ詳細に空間的変遷を解読し、それを博物館の生涯学習事業として地域住民へ提示することで、広く共有・活用する手法を開発する必要がある。

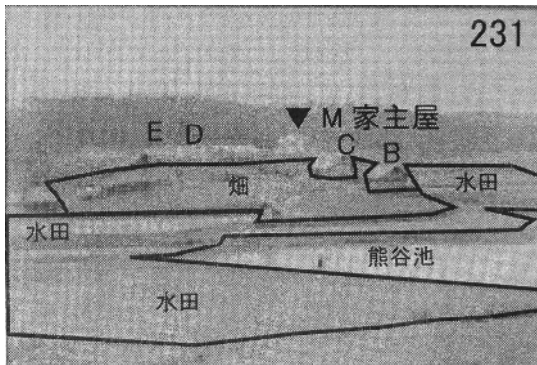


図4 古写真からの地物の読み取りイメージ

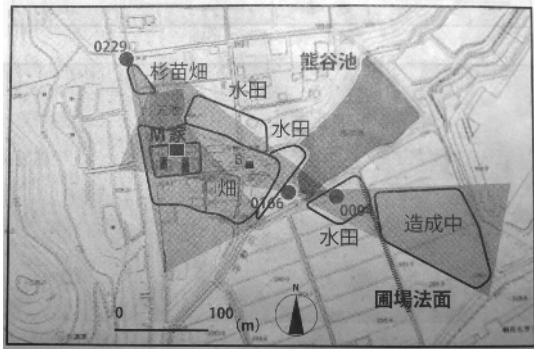


図5 建物や土地利用の判読イメージ

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

山崎義人,古写真を通した戦前開拓村の空間的変遷の解読～兵庫県三田市下相野平野集落を事例として～,日本建築学会第5回住宅系研究報告会論文集,査読有,2010,99-106

赤澤宏樹,山崎義人,武田重昭,上田萌子,藤本真里,田原直樹,博物館による古写真と記憶の収集と活用,平成22年度日本造園学会関西支部大会研究・事例報告発表要旨集,査読無,2010,41-42

山崎義人,古写真を通した戦前からの開拓村の形成過程の解読方法,日本建築学会計画系論文集,第664号,査読有,2011,1137-1144

[学会発表](計3件)

山崎義人,武田重昭,赤澤宏樹,上田萌子,藤本真里,田原直樹,中瀬勲,博物館による古写真の収集・分析・還元,日本造園学会第12回日中韓国際ランドスケープ専門家会議,2010,横浜市開港記念会館

赤澤宏樹,山崎義人,武田重昭,上田萌子,藤本真里,田原直樹,博物館による古写真

と記憶の収集と活用,日本造園学会関西支部大会,2010,鳥取環境大学

山崎義人,古写真を通した戦前開拓村の空間的変遷の解読～兵庫県三田市下相野平野集落を事例として～,日本建築学会第5回住宅系研究報告会,2010,建築会館

[その他]

古写真展等の開催

兵庫県佐用町三河地域古写真展,2009,三河地域づくり振興センター

兵庫県佐用町三河地域古写真展,2010,三河地域づくり振興センター

兵庫県山東町与布地域古写真展「与布の風景と暮らし」,2011,与布地域コミュニティセンター

兵庫県山東町与布地域「昔の与布の暮らしを語る会」,2011,与布地域コミュニティセンター

兵庫県佐用町三河地域古写真展,2011,三河地域づくり振興センター

兵庫県川西市黒川地区古写真展,2011,黒川地区公民館

6. 研究組織

(1)研究代表者

田原 直樹 (TAHARA NAOKI)

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・教授

研究者番号:50244695

(2)研究分担者

赤澤 宏樹 (AKAZAWA HIROKI)

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・准教授

研究者番号:30301807

藤本 真里 (FUJIMOTO MARI)

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・助教

研究者番号:60311487

山崎義人 (YAMAZAKI YOSHITO)

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・講師

研究者番号:60350427

客野 尚志 (KYAKUNO TAKASHI)

関西学院大学・総合政策学部・准教授

研究者番号:80322725

(3)連携研究者

武田 重昭 (TAKEDA SHIGEAKI)

兵庫県立人と自然の博物館・研究員

研究者番号:10549695

上田 萌子 (UEDA MOEKO)

兵庫県立人と自然の博物館・研究員

研究者番号:10549736